

菊池学園

だより

第42号
令和4年度第7号
2022年
9月21日

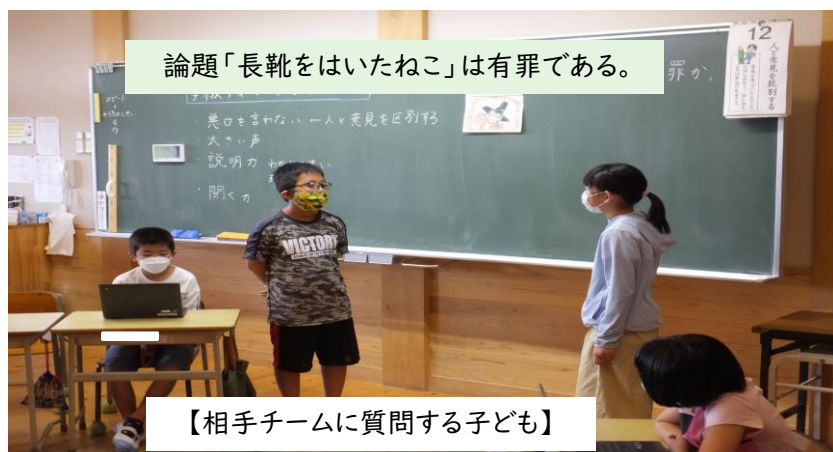


先生インタビュー

学校訪問・取材特集号

「教室の空気が変わった」

伊野小学校 4年2組 濱田 正和先生



論題「長靴をはいたねこ」は有罪である。

【相手チームに質問する子ども】

菊池先生：一生懸命、相手意識を持って言おうとしていた。2分間であれだけやれるのは凄い。

ディベート(ディベート的な話し合い)は、自分の立場を決めて、意見をつくるから、子どもたちの学びに向かう姿勢や普段の話し合いが変わってくる。

子どもたちが、変わっている事実を成長ノートで振り返り、普段授業の話し合いにつながり、プラスのサイクルが循環する。



濱田先生

菊池先生



Q.変わるキッカケは？

A.1学期の終盤は、注意する場面が多く空気が硬く重かったです。

でも、それを变えたくて、2学期から「なぜ、なぜならゲーム」など、コミュニケーションゲームを少しずつ体験させました。

菊池学園担当者会で菊池先生から学んだ、ディベート的な話し合い「ゾウとネズミ」をやってみたら、子どもたちが対話を楽しんでいた。そこから空気が変わったと感じました。



【夏の研修で話す菊池先生】

Q.どのように変わった？

A.自信がなくて発表できなかった子や、声が小さい子が「自分の意見を言いたい!」と参加するようになりました。

「ディベートをやりたい人?」と聞くと手が挙がります。子どもたちの学びに向かう姿勢が変わったことがうれしい!



価値語・成長ノート・ほめ言葉のシャワーで、温かい学級を作りながら、対話のある授業で学びに向かう姿勢を育てています。ポイント5つが、複合的に絡み合い相乗効果を感じました。

担任の濱田先生が子どもたちの成長を嬉しそうにお話される様子が素敵でした。(菊池学園担当)